

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300727		
法人名	社会福祉法人仁和会		
事業所名	グループホーム聖心園		
所在地	熊本県人吉市南町8-1		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人ひとりの暮らしを大切にしてお互いを認め合い支えていく姿勢がある事。持てる力が発揮できて、共に暮らす生活観がある事。近隣に病院、学校、幼稚園、教会、城内、神社などあり暮らしを支える環境に恵まれていること。母体施設と協働しながら、安全で安心の暮らしを提供できること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開設より5年を経過し、入居者の心身の機能低下による重度化が進んでおり、全職員が“早めに行動を察知し動くこと”、観察力・気づきを持ったケアに取り組み、ホーム内では車椅子を使用せず、下肢筋力低下の入居者には職員2名体制でのトイレ対応や歩行訓練、認知症進行防止に新聞の音読、問題集に挑戦等の支援が穏やかな生活となって表れている。日々のバイタルの他、プランを反映した健康状態チェック表による健康管理や体調変化時の速やかな対応、母体施設・協力医療機関との連携が入居者・家族の安心につながっている。また、週1回のシスターのボランティア訪問による交流も図られている。今年度は家族の希望により、看取りケアに取り組み、初めての経験を活かすべくBS法で話し合い、今後の避けて通れない問題として全員が受け止めている。職員の研修体制も確立し、全職員の水準を保つ為、統一した投薬方法やホームは「皆で考え作っていくもの」という考えが浸透し、向上心を持って笑顔で優しくケアに当たる職員と入居者との関係、家族との関係も構築し、家庭的な温かいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈愛に満ちた法人の精神を受け継ぎ、ホーム独自の理念を話し合いのもと作成した。実践に向けて努力目標を掲げ取り組んでいる。地域密着型としてのサービスの意義を会議や日常の関わりの中で取り上げ振り返り考えながら実践している。	法人の基本方針をもとに、介護理念や援助目標(努力目標)等を独自に具現化して掲げ、“地域、家族とのかかわりの中で生き生きした暮らし”等地域との関係を謳い、日頃からケアへの迷いや悩みが生じた場合は理念に立ち返り、毎月1回行う会議の中でも話し合いの場を持ち介護実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃作業に参加したり、地元の幼稚園や小学校の運動会に入居者と共に参加したり、近隣のスーパーへの買い物や散歩時など、気軽に声をかけてもらっている。	散歩や買い物時の近隣住民との歓談や地域の一員として行事や清掃作業に参加し交流を図っている。また、幼稚園・小学校の運動会・音楽会は毎年招待されている。民生委員やボランティア、県職員の研修の場としての提供により訪問者が多く、介護サービスをはじめとした話題での情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員、ボランティアの方、県職員の方の研修の場として提供している。施設見学や入所希望の方には相談がしやすいように、場を作り認知症の理解や支援の方法を提供している。何度も足を運ばれる方も居られた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的に会議を開催し、活動状況、暮らしぶりを報告している。会議録は誰でも常時見ていただけるように、手の届く場所に提示している。	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は活動報告や現状報告、自己・外部評価やアンケート結果も報告され、意見交換が行われている。委員から地域の高齢者情報が寄せられたり、意見交換を行なっている。	今後も具体的なケアにつながる身近なテーマ等を検討し、事前に議題を案内することで委員の意見や提案等が多く出されるような工夫に期待される。また、委員も近隣住民等の検討により、多様な関係者での会議とされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の担当者の参加があり、実情を伝えており、意見や互いに情報交換している。	行政担当者の運営推進会議への参加や待機者を提供したり、新入居者についての相談等適切なアドバイスが得られている。また、ホームも県事務所の新任研修の場としての提供や市町村からも民生委員の研修、見学を受けており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束をしないケアの実践に向けての全体研修に参加している。スタッフが法人で活動している身体拘束委員会の一員として定期的に情報提供している。部署研修としても取り上げ、拘束に対する理解は高くケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束委員を配置し、本体施設での研修会や勉強会に参加し、拘束の無いケアに全員で取り組んでいる。理念の重点項目でもあり、全員が拘束の内容を正しく認識し、職員同士で話し合ったり、管理者は事例を通し指導している。玄関にセンサー、事務室には安全確認のためモニターを設置し、入居者の落ち着かない様子からドライブに誘う等職員は観察力を発揮し、玄関や職員の出入口等開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について事務所に掲示し、事例集を参考にして部署研修をしている。利用者のご家族には、認知症の理解を始め無理のない関係が築けるように、談話の機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者が日常生活自立支援事業や成年後見制度を必要としており身近なこととして制度やその経緯を学んでいる。部署研修としても学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に、施設見学をしていただき管理者は契約に関して不安や疑問点を尋ね十分説明をして理解していただけるようにしている。改定時は都度変更のお知らせを文書と、口頭で説明し理解納得していただけるようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加をお願いし意見を言っていた場としている。苦情受付先の紹介を園内に掲示紹介している。家族が意見要望を言えるように管理者や職員は、日頃より何でもいえる関係つくるように心がけている。	入居者からはお茶の時間等のゆっくりした時間を通して、家族からは訪問時や電話、運営推進会議の場で思いや意見を聞いており、運営上の苦情は無いが家族の要望が職員の増員になる等具体的に反映させている。外部の申し立て機関として本体施設や行政の窓口を説明している。	家族からの申し出は少ないようであるが、出てきた要望には積極的に反映させる体制であり、外部の苦情相談の申し立て機関を重要事項等にも掲載し、今後も継続した意見や要望の収集に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全員出席の会議を利用して運営委員会の報告や運営に関する意見や提案を聞いている。代表者や管理者は日常の談話の中で職員が意見や提案を言う事が出来るようにしている	管理者は、職員皆で考え一緒に作っている家であるというポリシーを持ち、提案や意見の言い易い環境を作り、アンケート等を行っている。入居者の身体機能の低下に風呂場やトイレの手すりの増設や設備面での改善を図る等日々のケアの気づきを常に話し合いケアサービスに反映させている。また、法人の運営委員会でホームからの提案や意見を挙げ、職員への報告により情報を共有している。全職員が出勤時には本体施設へ顔を出すことに変更したことが法人全体の協力体制の強化につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握しており、勤務場所や労働時間を考慮している。資格取得後は正規雇用としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、職員を育てるための取り組みをしており、園内研修、外部より講師依頼しての研修を初め、外部研修の紹介や個人の實力に合った研修参加を促している。認知症実務者研修を今年一名受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の各事業所と、部署体験の機会を作り園内研修で報告しサービス質の向上を図った。又年6回の人吉球磨グループホーム連絡会の勉強会や交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に情報提供者と訪問する。利用前に見学していただく機会をつくるなど、ご本人の気持ちを受け止めながら、ご本人にとって安心できる暮らしの支援に向けての関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち、不安、要望が言える雰囲気を持ちしっかりと受け止め柔軟な対応を心がけている。具体的に不安解消に向けてできるところから一緒に考えていく事で信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時の面談により今必要な支援を見極め他のサービス事業所の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力を見極めながら共に支えあい過ごしている。新聞や小説の朗読やエレクーン伴奏は役割としてされている。餅つきや干し柿作りでは先人の知恵を借りながら共に行い、喜びを分かちあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に食事のテーブルについて談話に加わっていただいたり、面会時間も柔軟に対応している。遠方の家族様へ電話連絡や取次ぎも随時行い互いに情報を提供しあい本人を支えている。クリスマス、夏祭りなどへ声かけしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室でお茶をいただき、ゆっくりとした時間を過ごされている。ふるさと巡りの企画や病院受診時、買い物時に馴染みの場所へ立ち寄っている。	馴染みの美容院の利用や病院受診時に昔からの知人との歓談、友人や親類の訪問、墓参をしたいとの希望に家族から情報を得て一緒に出かける等馴染みの人・場所が途切れないよう支援している。また、ふるさと巡りとして、職員の傾聴により入居者から出た町や昔住んでいた場所等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	言葉での意思表示が出来ない方は意向を 汲み取り代弁し利用者同士の関わりが温か いものになるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者・家族の意向により契約を終了した ケースについては、今後の継続的な相談窓 口になることを伝えている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	初期の段階から本人の希望、意向を確認し ているが入居後も定期的及び必要時アセス メントを実施し本人の意向を把握するよう にしている。困難な場合は本人の思いシートを 利用しながら、検討会議をし把握に努めて いる。	入居時基本情報や課題に関するアセスメント 時に本人の悩みや希望を中心に聞き取り、カ ンファレンスで本人の今の思いや職員が気づ いたこと、観察の結果を全員で話し合い、本 人本位の生活支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所時のご家族や事業所よりの情報提供を 始めとして、面会者との談話や生活の中か ら感じ取り記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	出来る事、わかる事のアセスメントや毎日の 健康チェック記録、支援記録で本人の望む 暮らしが出来ているかをスタッフは随時話し 合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	モニタリングを行い家族の意見希望を聞き スタッフ全員参加のケア会議で意見やアイ デアを出し合い、介護計画を作成している。	日々の生活の現状や変化をこまめに記録し、 家族にも訪問時や電話で話し合い、モニタ リングをもとに毎月全職員でケア会議を開催 している。入居後まず本人の状態確認として 3ヵ月後のプランの見直し、心身状態の変化 や退院時の見直し等を行い、現状に即したプ ランを作成している。健康状態チェック表もプ ランに応じて作成し、変更に応じた追記、援 助内容も詳細で具体的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日中、夜間での様子やケアの実践、気づきを記入している。毎月のケア会議では記録による情報が共有され、ケアの統一、実践に生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により連携をとりながら病院受診をしている。又自宅や美容室への送迎支援している。法人施設より高カロリー食の提供や機械浴の提供ができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容室、美容室利用時便宜を計らっていただいたり、お茶の接待をしてくださっている。近く教会からは毎月曜日にボランティアで食事づくりを手伝っていただいている。学校、幼稚園からは毎年運動会や音楽会の招待があり楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医と連携をとっている。医師の病状説明は一緒に聞くようにしている。遠方の家族には、面会時に医師との面談の機会が持てるように支援している。	入居時にこれまでのかかりつけ医で良いことを伝えているがほとんどが、内科は近くの法人代表者である協力医院での定期受診を職員で対応・支援している。受診科目によっては家族に希望医療機関を確認しホーム側で対応しているが、遠方の場合は家族に受診付き添いを依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師1名準看護師1名が配置されている。本体医務室との連携も取れており、日常の利用者の変化の対応を相談できる。医療機関の看護師との連携も取れており、受診の際の相談や便宜を図ってもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連携をとりながら受診時より付き添い入院時は情報提供をしている。入院中も面会や電話で病院関係者と情報交換し早期退院に向けて協働している。家族の意向、相談を含め連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合や終末時のあり方を説明して同意を得ている。重度化の方については、医師、家族、事業所で話し合いの場を持ち、方針を共有している。	入居時に重度化・終末期のあり方を説明し、医療連携加算をとる時点で再度家族に説明し、同意書を交わしている。ターミナルケアを行うにあたり、ターミナル用のプランに変更し、家族・主治医、ホームとの話し合いや24時間の医療との連携により、看取りケアを行っている。職員は初めての経験をBS法で話し合い、自信になったとの声もあり、家族からも感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急手当は日々の暮らしの中で常勤の看護師より学んでいる。外部講習で消防署より蘇生法の実技講習を受けた。緊急マニュアルを目に留まるところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に月一回避難訓練をしている。災害時マップ、マニュアルは目に留まるところに掲示している。地域との協力体制は取れていない。水、食料の確保は出来ている。火災に関しては3月スプリンクラーが設置される。	毎月昼・夜を想定しながら、火元・時間・職員の数などポイントを変えながら訓練を実施している。人吉防災マップ、防災用ラジオの準備や母体施設に備蓄食糧も完備されている。スプリンクラー設置工事も進み、消防署との自動通報装置も設置予定である。	毎月自主訓練により有事に備えている。今後、ホーム独自で消防署立会いの総合訓練の実施や災害は近隣住民にも起こりうることであり、「お互いに助け合う」という観点から相互の協力体制についての話し合いを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護、プライバシーの保護について見えるところに掲示している。排泄や入浴の支援時や訪室時にプライバシーに配慮した声かけをしている。	呼称は入居時に本人や家族に確認し、日常の会話も方言の中にも温かさがあり、一人ひとりの人権に配慮したケアに徹している。個人情報に関する重要書類は事務所保管とし、個人情報基本方針を掲示し、接遇マナー委員会の努力目標“あいさつ＋笑顔”を掲げ意識向上を図っている。職員のケア姿勢は優しく、歩行介助、排泄、トイレ誘導、入室時等入居者の誇りやプライドを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝夕のおやつの時間に談話の時間を持ち一人ひとりに声をかけ希望や思いを話していただくようにしている。自己表現できない方も代弁することで笑顔で談話に参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースがある事をスタッフはよく知っており、好きな場所で好きな事をしてすごされるように支援している。居室での読書、仏様お参り、静養、外出などされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔時には鏡を見てもらい、髪をといてもらったり身だしなみを整えられるようにしている。男性の利用者は髭剃り支援や理容室を利用される。衣類は希望を伺い準備する。口紅や化粧、ムースをされる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食作りの手伝いや、小鉢への盛り付け、お茶の準備、下膳などできるところで力を発揮されている。食材購入時はできるだけ一緒に出かけている。	母体施設の栄養士の作成した献立を基本に、昼・夜はメインを本体調理室で作り、朝食やごはん・汁物・小鉢などをホームで調理している。入居者も調理や片付けなど出きる事を一緒に手伝い、職員と会話を楽しみながらの食事時間である。誕生会や行事食は入居者の好みを反映したメニューとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は健康チェック表に記録して居る。ミキサー食の方、カット食の方あり、朝食前に牛乳を飲まれる方あり、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性をスタッフは学んでおり、朝の洗顔時昼夜食後の歯磨きや義歯の手入れを支援している。うがいが出来ず飲み込まれる方へ協力歯科医院へ相談したり歯石除去をお願いした。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えや、そぶりを感じ取りトイレでの排泄につなげられるように努めている。適宜チェック表を利用し排泄コントロールをして排泄の失敗を減らしている。	入居者一人ひとりの排泄ケア方法を職員間で出し合い、声かけの仕方を工夫し、下肢筋力低下の方へも二人体制で誘導しトイレでの排泄を支援している。夜間も声かけや誘導、不安を持たれる方へはポータブルトイレにする等個々に応じた支援である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフが本体の排泄委員会一人として活動し情報提供などを活かし便秘の及ぼす影響を常時心に留めている。、水分摂取の機会を増やし、散歩を促したり、ヨーグルト、食物繊維(オクノス)を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方は入浴を楽しんでもらえるようにタイミングを見つけて入浴のお誘いをしている。混乱のある方は二人で支援しているが湯船の中ではマンツーマンで談話され歌を歌われてゆっくりとした時間をもたれている。	毎日入浴の準備を行い、時には入浴剤を使用し概ね週3回を目安に支援している。できるだけ同性介助を心がげ、拒否時にはトイレ支援から引続き入浴へと誘導する等職員間で声かけや誘導方法を話し合い、間隔が空かないように努めている。汚染時にはその都度入浴による清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時頃までホールでテレビを見たり談話されてすごされる方もある。家族からの栄養剤や梅酒を楽しみに飲んで休まれる方も居られる。室温の調整や加湿への配慮したり、安眠されるように夜間の支援時のタイミングを考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をいつでも見れるように個人ケース記録に綴じている。薬の変更時は連絡ノートやケース記録で伝達し、服薬チェックし、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書の力のある方に名前を書いていただいたり、共同作品に文字を書き添えていただいた。エレクトーンの伴奏や新聞の朗読は役割としてされている。クラシックを好まれる方もおられ意見を聞きながら多様の音楽を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はできるだけ戸外に出かけている。墓参りを切望されている方が居られ、家族の情報を得て出かけた。不穏時はドライブにお誘いし馴染みの場所へ出かけ気分転換されている。買い物に行きたい方は食材購入方々お連れしている。	新型インフルエンザの影響により外出は減少気味のようなのだが、天気の良い日には敷地内や近隣の散歩、買い物、花見等戸外に出かけている。また、地域や本体施設の行事等に参加したり、墓参に馴染みの地域に出かけている。	これからの暖かい季節には、運営推進会議での情報や意見を参考に、入居者の体調にも配慮しながら希望に応じた外出支援が今後も多くなることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持しておられる方が一名おられる。施設預かりの方も美容室利用の際やお祭りの楽しみ時に手渡し使うことへの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話を希望される方は無いが荷物が届いた時や園からの近況報告時には電話に出てもらい家族とのつながりを支援している。暑中見舞いや年賀状も出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には観葉植物を置き、壁には落ちついた懐かしい絵が飾られている。手の届くところに本や置物がありコタツを囲んでテレビを見たりして憩われている。ホールからみえる通学の児童たちの様子や木々に目を留められている。	高い天井や天窓を採り入れた共用空間は、明るく開放感に溢れている。又、空間にマッチしたカレンダーの掲示や観葉植物・炬燵の置かれた畳の間など入居者の心和む居心地良い空間である。	排水溝からの異臭が気になる一か所のトイレは、掃除の時間や方法を検討し改善されることで居心地の良い空間となることが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は利用者同士の関係を考えながら設定している。ホール3箇所にソファをおき、テーブル、コタツ、ホール奥ソファと好きな場所で好きな時間を過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、家族本人と相談しながら馴染みのたんすや、鏡台、椅子を持ち込んでいただいている。ご自分の作品を飾り楽しめたり、仏様参りされたりソファでアルバムを見て過ごされたりされている。職員は居室で過ごされる時間を大切にして見守りしている。	家族の協力のもとテレビ・タンス・籐ソファ・洋画・木彫り作品や鏡台、化粧道具等女性ならではの等馴染みのものや趣味を活かした部屋等個々が自分の居室とした佇まいである。夫婦での入居にあわせ、一部屋を寝室、隣を居間として活用したり、季節毎の衣服の入れ替えなど出きるだけ家族に依頼し、遠方の家族にも連絡を取りながら一緒に過ごしやすい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下には手すりがあり、床はバリアフリーとなっている。トイレのドアノブの色を赤に統一し居室入り口と区別している。居室入り口に名前を明記し花の名前をそえている。6箇所のトイレは居室に近く使いやすいものになっている。		